

2025-26年度 加藤会長テーマ -世のため、人のため-

第3210回例会 令和8年3月31日(火) 天気:雨 No. 27



会長 / 加藤 典男 幹事 / 本多 淳

クラブ会報委員 谷崎直樹 / 羽佐田芳和 / 神谷明

例会日: 火曜日 12:30 例会場: 西尾コンベンションホール

事務局: 西尾市永楽町 3-45 西尾信用金庫中央支店内 204

TEL: 0563-54-7770 FAX: 0563-54-7050 URL: <https://www.nishio-rotary.org>

2025-2026 年度

RI テーマ

よいことの
ために
手を取りあおう

【本日のプログラム】

司 会 三宅千鶴例会運営副委員長 斉 唱 「我等の生業」
 スピーカー 野田 拓史氏 「AIのリアルと進化、これから広がる未来」
 ~東大生より賢い新人を雇う~
 食 事 寿和



【会長挨拶】



3月25日に子ども食堂の贈呈式が終わり、無事に幕を閉じることができました。皆様から本当にたくさんのご支援をいただき、心より感謝申し上げます。浅岡委員長が毎回「お金、お金」とお願いしていたのは恐縮でしたが、おかげさまで80万円をお渡しすることができました。食事に困っている子どもたちのためということで、食材購入に充てていただくようお願いしました。お菓子やお米など、皆様から多くのご提供もあり、特にお米は毎日のように運んでいただき、本当にありがたかったです。どれも質の良いもので、福祉協議会の方からも感謝の言葉をいただき、改めて素晴らしい活動だと感じました。最後には200食のお弁当もお渡しし、「豪華で食べきれない」と喜んでいただきました。こうした活動を通じて、支援の大切さを実感しています。

3月27日にロームが東芝、三菱電機とパワー半導体事業を立ち上げると発表しました。デンソーによる買収の話もあった中での発表で、様々な見方がされています。半導体というのは電気を通す導体と通さない絶縁体の中間にあるもので、電気の流れを制御する重要な技術です。特にパワー半導体はEVや産業機械に使われますが、日本は分野ごとに分かれており、統合が遅れていました。今回の連携は大きな意味を持つと思います。

さらに今後は、NTTが進める光半導体にも注目です。電気ではなく光で情報を処理することで、性能は従来の125倍とも言われています。実現すればエネルギー問題にも大きな影響を与える可能性があります。こうした動きを見ていると、日本の将来にも希望が持てるなど感じています。

【委員会報告】

〈出席委員会〉 岩瀬 淳治委員長

本日の出席数 58名 欠席数 12名 出席率 82.86%

〈スマイルボックス委員会〉 辻村 敏晃委員長

加藤典男君 子ども食堂、無事完了。会員のみなさま、絶大なご協力、誠にありがとうございました。感謝。

本多 淳君 社会奉仕委員会 浅岡委員長、子ども食堂の事業に関しありがとうございました。

浅岡直幸君 3/25春休み子ども食堂、無事終了しました。メンバーの皆様の熱い想いのおかげで、寄付金も80万円になりました。ありがとうございました。

尾崎隆爾君 先日は浅岡直幸さん、辻村敏晃さんに大変お世話になりました。

杉浦 広君 先日は加藤さんのおかげでおいしく楽しい時間を過ごせました。

杉田明弘君 悠峰写真場様、ご無理なお願いに迅速、丁寧な対応ありがとうございました。

【卓話】

野田 拓史 氏 「AIのリアルと進化、これから拓がる未来」 ～東大生より賢い新人を雇う～



AIの導入について、日本は世界的に見ると少し遅れていると言われていています。一方で、アメリカではすでに大きな変化が起きています。ニュースなどで見聞きした範囲にはなりませんが、特にコンサルタントのような職業は、今後衰退していく、あるいは役割が変わっていくと言われており、実際に就職環境が厳しくなっているという話も出てきています。

これまで新入社員の方に任せていたような定型的な業務、例えばデータ入力や資料作成、簡単なリサーチといったものは、すでに生成AIやAIエージェントで代替できる段階に來ていると感じています。日本は少子高齢化による人手不足が続いていますので、技能職や現場職の価値は上がり続けています。今後、事務系の仕事がさらにAIに置き換わることで、現場職を志向する人が増えていく可能性もあるのではないかと思います。

また、大手企業では早期退職の募集が定期的に行われています。景気や将来の不透明感だけでなく、AIの活用や人員構成の見直しといった背景も影響しているのではないかと感じています。現時点ではまだすべての業務にAIが入り込んでいるとは言えませんが、事務業務の減少と現場の人手不足という流れは、今後も続いていくと考えています。

今回、「東大生より賢い新人」という表現を使いましたが、AIは月額数千円程度で導入でき、24時間365日稼働し続けます。文句も言わず、体調不良もなく、突然辞めることもありません。最近ではマネジメントにおける配慮も重要ですが、そういった点を考慮する必要がないという意味でも、非常に扱いやすい存在です。コストや時間効率の観点から見ても、非常に優れた存在だと思います。現在AIに期待されている役割としては、リサーチ、資料作成、議事録の自動作成、メール返信、データ入力、異常検知などが挙げられます。既存のシステムと組み合わせることで、より高い精度で業務を回している企業も増えてきています。

ただし、AIは万能ではありません。「AI新人」と呼ばれることもありますが、新入社員と同じように教育が必要です。目標を設定し、必要な知識や前提条件を与え、実務で使いながら、ミスがあれば修正していく。このサイクルを回すことで精度が上がっていきます。知識の習得スピードは人間よりも速いですが、最初から正しい答えを出せるわけではありません。若手社員の方はAIへの順応が早く、積極的に活用してくれる一方で、AIの回答をそのまま正解として扱ってしまうケースも見受けられます。根拠を確認せずにアウトプットしてしまうリスクもあるため注意が必要です。一方で、ベテランの方は長年の経験から「何が正しいか」「どうあるべきか」を判断できる力を持っています。若手がAIを使いこなし、ベテランがチェックと補正を行う。この組み合わせが、現実的で効果的な進め方だと考えています。

実際の事例としては、マーケティング領域でAIエージェントを活用し、市場調査から広告運用、クリエイティブ作成までを自動化しているケースがあります。また、複数店舗を展開している企業では、数百店舗分のデータ分析とレポート配信を自動化し、大幅な工数削減と属人化の解消を実現しています。弊社でも、議事録の自動作成や契約書の一次チェック、資料作成の一部をAIで対応しており、業務効率の向上につながっています。人材分野においても、情報をAIに読み込ませることで、提案の質とスピードを両立させる取り組みが進んでいます。

一方で、大企業においては情報の正確性やセキュリティの問題が課題となっています。特に金融分野では慎重な判断が求められます。中小企業の場合は、大手のツールを柔軟に活用しながら、自社に合った形で導入していくのが現実的だと思います。進め方としては、まず業務の棚卸しを行い、標準化できる部分を整理することが重要です。属人的な作業や暗黙のルールを明確にし、AIに任せられる形に整えていく。その上で、単純作業はAIに任せ、人間は判断や対人業務に集中する。この役割分担を意識していく必要があります。

AIは魔法ではなく、あくまでソフトウェアの一種のため、投資対効果を見ながら活用していくことが重要です。まずは定型業務から試し、AIとの対話を重ねながら、自社に合った使い方を見つけていく。この積み重ねが成果につながっていくと思います。AIの進化は非常に早く、今できないことが1年後には当たり前になる可能性もあります。この変化を前向きに捉え、柔軟に対応しながら、一つひとつ進めていきましょう。

